

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2017年7・8月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第586号

ミュシヤ展が六月初めまで開催され、「スラブ叙事詩」を鑑賞することができた。スラブ民族の古代からの歴史を民衆の視点から描いた作品に圧倒される思いだった。

二〇枚におよぶ大作のなかから、ふたつの作品について述べてみたい。ひとつは「スラブ式典礼の導入」、もうひとつは「ベツレヘム教会礼拝堂で説教するヤン・フス」である。

「スラブ式典礼の導入」には「汝の母国語で主を讃えよ」と副題がついている。典礼のさいにスラブ語の使用を認めるといふ教皇勅書を、ローマからの使者がモラヴィア国王の前で読み上げる場面だ。紀元八八〇年のことである。

もつともこのわずか五年後にスラブ語による典礼が禁止されるなど、その後幾度もの変遷を経ることになるが、聖書を自国語で読むという願いは人々の心に深く根差すことになった。

それから五〇〇年、ジョン・ウイクリフが聖書を英語に翻訳したのは一三八二年であった。その当時プラハを首都としていた神聖ローマ帝国の皇

帝カレル四世の王女アンは、イングランド国王リチャード二世の王妃となった。

王妃はチェコ語の聖書を持っていたが、国王は自国語である英語の聖書を持っていなかった。それが、ウイクリフが聖書翻訳を進めたひとつの背景だと言われている。

ムシヤ(チェコ語ではムハ)が描いた「ベツレヘム教会礼拝堂で説教するヤン・フス」は、フスその人よりも、礼拝堂を埋める人々に光があたり、その姿勢や表情、視線の行方に興味がひかれる。主人公は民衆である。民衆がフスの語る言葉をいかに支持していたかが描かれ、またそれを快く思わない人がいた

「スラブ叙事詩」を観て

日本クリスチャン・アカデミー評議員

横野 朝彦



休日である。プラハ旧市街広場にあるフスとそれを取り囲む群衆の像は、フスの死後五〇〇年にあたる一九一五年に建てられ、ナチ支配下や、「プラハの春」を挟んだ前後の厳しい統制下にも生き延びて今日に至っている。

フスがおこなった説教は原稿が残っており、ほぼその全容を知ることができるという。そして穏当でまっとう

な主張がされていると聞く。教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九〇年にプラハを訪れ、フスを教会改革者たちの中に正しく位置付ける必要があると述べた。カトリックとして、フスを再評価したのだった。

今年は宗教改革五〇〇年である。ルターがヴィッテンベルクの城門に「九五か条の提題」を貼り出したのが、一五一七年一月三十一日であったからだ。

筆者自身はプロテスタントの教会に属し、その基本理念を大切にしたいと思っている。

けれども、わが身を振り返り、またキリスト教界の様子を省みるに、どこか硬直し、人々の生活から乖離しているのではと思うことがある。プロテスタント教会には、新たな宗教改革が必要なのではなからうか。

そしてそのためにも、礼拝を自国語でおこなうために腐心した先人たちに学び、また民衆の言葉で語ろうとしたフスたちの、時代に抗う働きから学ぶことの意義は、とても大きいと思える。

(日本基督教団番町教会牧師)

関東活動センター

●2017年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅰ
「日本キリスト教史を読む」

第Ⅰ期(明治篇 全7回)

講師 日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん

2017年6月8日(木)～12月14日(木)

会場 日本キリスト教会館6階



去る6月より、2017年度 日本キリストチャン・アカデミー関東フォーラム 宗教対話Ⅰ「日本キリスト教史を読む」Ⅰ(明治篇全7回)が始まった。場所は日本キリスト教会館会議室。本講座は、明治期の初めより、この国にプロテスタント・キリスト教が主に宣教師を通して紹介された際、受け取り手である日

本人はどのように受容したのか、そのことを代表的な人物に焦点を当て考察することを目的とする。取り上げられるのは、新島襄、海老名弾正、植村正久、内村鑑三、新渡戸稲造、柏木義円など、第一世代キリスト者たち。その、生涯と信仰理解を、資料に基づきながら学ぶ。また、この講座は、講師による各神学校での「日本キリスト教史」の講義を下敷きに、信徒や一般向けに「分かりやすく」展開されることを特徴とする。講師は戒能信生氏。戒能氏は日本基督教団千代田教会牧師であり、日本聖書神学校・農村伝道神学校・東京バプテスト神学校など、教職養成に関わる中で日本キリスト教史に精通しており、その資料収集・分析には定評がある。



●2017年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ 特別企画
「編集者がその本音を語る」第一回
「柴崎聰さんに聞く 編集者として、キリスト者として、そして詩人として」
ゲスト 元・日本キリスト教団出版局編集者 柴崎 聰さん
聞き手 日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん
2017年7月7日(金)
会場 カフェ・エクレシア(東京都台東区蔵前)

今回の企画は、今様々な意味で曲がり角に来ていると言われるキリスト教ジャーナリズムの世界、その中で長年編集に携わって来られた方々をお招きし、現在の日本社会やキリスト教界の状況について

さて、第一回は6月8日(木)午後2時より行われた。初回ということもあって、20名近くが参加し、会場である会議室は座席が足りなくなるほど。年齢層は「やや高め」というところだろうか。用意していた資料も足りなくなり、慌ててコピーをとりながら進めた。冒頭、戒能氏は本講座の趣旨を説明。次に、横浜バンド・札幌バンド・熊本バンドや、公会運動に触れつつ、日本におけるプロテスタント・キリスト教宣教に

ついて説明された。第二回は7月13日(木)午後2時より、新島襄を取り上げての講義。猛暑の中、前回より増え30名近い方が参加、前回に引き続き、慌ててコピーをとりながら進むことに。冒頭、新島襄の生涯を紹介するビデオが上映され、引き続き、資料に基づいて説明がなされた。今後も、取り上げられる人物たちが、どのように紹介されるのか大いに期待するものである。(日本基督教団四街道教会牧師 矢吹大吾)

率直な批判と提言をしてもらおうというものです。しかも、いつもの会議室を離れ、夕刻、ドリンクを相伴にリラックスした雰囲気の中でひと時を過ごしてみても、と考えました。
当日、定員20名の会場いっぱいの方が共に、柴崎氏のとても静かな語り口で自身の個人史と編集への熱い思いをうかがい、詩人としてのお立場からは「尹東柱」「石原吉郎」「安西均」「八木重吉」などを取り上げ、彼らの作品と生き様をとおして近代日本のキリスト教の在り様を「詩」という切り口で再考させていただきます。
次回は 10月20日(金)
ゲスト 中川和夫さん(元・岩波書店、現・ブネウマ舎代表)
聞き手 月本昭男さん(上智大学)
を予定しています。



関西セミナーハウス活動センター

●2017年度 修学院フォーラム「福祉」第1回
〈共催(公財)京都YWCA〉

「共に生きる地域社会づくり」

「からしだね」の実践からみる、精神障がい者にとつての生きづらさ

社会福祉法人ミッショ
ンからしだね理事長 坂岡 隆司さん

2017年6月10日(土)
会場 京都YWCA



昨年夏相模原市で起きた障害者施設殺傷事件は衝撃的であった。殺傷事件の当事者は、「障害者は、社会のお荷物だ、いない方がよい」と主張している。殺傷事件を曳き起こす迄に至らなくても、このような考え方は、現在の社会の様々な場面で顕在化する。障がい、人間の欠陥とみなされ、強いこと、完全なことだ

けが重んじられ、弱いことは意味の無いこととされる。出生前診断が行なわれ、障がいの可能性のある子どもは、生まれにくいように処置される。そのような空気が、生きづらさを生みだし、精神を病む人を作り出している。

演者は、京都市山科の地に、約10年前から社会福祉施設「からしだね」を開設し、そこで主に精神を病む人に寄り添い、働く場を提供し、生活の立て直しや就職の支援を行ってきた。今回は、その活動を通して見えてきた社会の生きづらさを生み出す要因を示し、共に生き生きと生きていける社会を作るためには何が必要かを、参加者と一緒に

考えようとした。京都YWCAとの共催プログラムであったので、YWCA関係の婦人も多数参加され、豊かな内容の会となった。

現在日本では、精神を病む人が330万人にも上っている。厚労省は、精神疾患を脳卒中、心臓病、糖尿病と並ぶ5大疾患の一つに数えている。日本で精神疾患のため入院する人の在院日数は、諸外国に比べて飛びぬけて長い。

これは、日本の社会が病んでいることを示している。人は、どうして精神を病むのか。周囲の人との間に信頼関係を作れずに疲れ果てている若者たち。貧困や過重労働などにより、社会の監獄に閉じ込められていく若者たち。安定した職業や家庭を持たず、将来に希望を持たない若者たち。他人の過ちや欠点を許さない不寛容な社会。公平、中立を

求める圧力が、自由な言論を妨げ、閉塞感を生み出している。そうした生きづらさが精神を病む人を作り出している。その結果、毎日1000人の人が自殺を図っている。共に安心して生きるために何が必要か。弱さを抱え、生



大切。弱さの持つ意味や価値が見直され、「弱さ」の哲学が確立されることが求められる。使徒パウロの次の言葉は、示唆に富んでいる。「主は『わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう」(コリントⅡ、12:9-10)

きづらさを感じている人たちの「隣人」になること、関心、共感、関わり、コミュニティの価値が見直されることが大切。つじつまや帳尻を合わせるのがうまい器用者としてではなく、不器用者として生きるデクノボーとしての生き方が

関西セミナーハウスでは、大会議室で使用するグランドピアノを求めています。お心当たりの方は、ご一報下さい。
TEL 075-711-2115



賛助会費・寄付金報告(1)	
(順不同・敬称略)	
2017年3月1日～3月31日	
関西セミナーハウス寄付金に記載漏れがありました。お詫びを申し上げ、以下に掲載します。	
中井 博雅	50,000
2017年5月1日～5月31日	
◆財団本部	
寄付金	
日本基督教団早稲田教会	25,000
◆関東活動センター	
賛助会費	
犬飼 護郎	5,000
松岡 俊彦	5,000
大橋 祐治	5,000
根津 建	5,000
竹政 志郎	5,000
神保 正男	10,000
武藤 陽一	5,000
斉藤 洋子	5,000
伊與田 ユキ子	5,000
次ページに続きます。	

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座I

「いのちをかけてのメッセージ『イエスの譬え話』に聴く」(全9回)

講師:山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2017年4月~2018年1月(8月除く)第2火曜 18:30~20:00 ⑤9月12日、⑥10月10日

会場:早稲田奉仕園スコットホール 参加費:1,200円/学生500円

テキスト:『イエスの譬え話2』

新教出版社

共催:早稲田奉仕園

■2017年度関東フォーラム 宗教対話I

「日本キリスト教史を読む」第1期(明治篇全7回)

講師:戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第3回「海老名弾正の生涯とその選択的受容の信仰」

日時:8月10日(木)14:00~16:00

第4回「植村正久の生涯とその正統的信仰理解」

日時:9月14日(木)14:00~16:00

第5回「内村鑑三の生涯とその贖罪信仰」

日時:10月12日(木)14:00~16:00 会場:日本キリスト教会館6階3号室 参加費:1回500円

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時:2017年9月10日(日)、10月8日(日) 9:00~15:00受付(1、8月を除く年10回)

於:関西セミナーハウス 年会費:5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2017年度お茶のこころと宗教のこころII

「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回)

座長:榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時:2017年4月~12月(8月除く)第1または第2木曜 13:30~16:30

⑤9月7日、⑥10月5日 会場:関西セミナーハウス

参加費:1回1,500円 学生500円(抹茶含む) 定員:20名

■2017年度お茶のこころと宗教のこころI

「キリシタン大名 高山右近の生涯が私たちに問いかけるもの」

講師:川村 信三さん(上智大学文学部史学科教授、イエズス会司祭)

日時:2017年9月9日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス 参加費:2,300円学生1,000円(お茶代込み)

■2017年度開発教育セミナー

第3回「『考える』をファシリテートする~民主主義を耕すために」

講師:森 秀樹さん(兵庫教育大学大学院教科教育実践開発専攻教授)

日時:2017年9月9日(土) 16:00~10日(日)12:00

第4回「日本は“死の商人”になるのか?~軍事と民生の境界線」

講師:杉原 浩司さん(武器輸出反対ネットワーク代表)

日時:2017年10月14日(土) 16:00~15日(日)12:00

会場:関西セミナーハウス 参加費:10,500円(1泊2食込)

東 西 南 北

大津健一さん:アジア学院理事長(元財団本部事務局長・関東活動センター所長)

2017年6月22日ご逝去。若き日の関西でのお働きに始まり、CCA、NCC在任時にもアカデミーと度々協働され、日本とアジアの平和と共生に尽くされました。謹んで哀悼の意を表します。

財団本部 http://www.academy-nippon.com 関東活動センター http://www.academy-tokyo.com 関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/ 関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本キリスト教アカデミー

代表理事 小久保 正 本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/ 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告(2)

Table with 3 columns: Donor Name, Amount, and Donor Name. Includes entries for 関東活動センター, 関西セミナーハウス, and 賛助会費.

以上、感謝をもってご報告申し上げます。